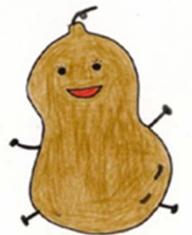


かわら版 いわしる

マスコットの



ひょうたん
です

空き家バンクの紹介

二本松市内の空き家の有効活用を通して、都市住民との交流拡大や定住促進による地域の活性化を図る事を目的に、空き家情報を提供しています。

空き家などを賃貸及び売却を希望する所有者から物件の提供を求め、市の「空き家バンク」へ登録した情報を、定住等を希望する方へ提供するものです。

情報提供の対象は、定住又は定期的に滞在して、経済、教育、文化、芸術活動を行うことを希望する方。または二本松市の自然環境、生活文化などに対する理解を深め、地域住民と協調して生活することを希望する方です。

契約交渉の際、直接型（双方で直接行う方法）と間接型（宅建協会に媒介を依頼する方法）があります。この方法は、物件の提供者が登録時に選択することとしています。市は、売買又は賃貸の仲介を

行っていませんが、媒介について、宅建建物取引業協会安達支部に手続きを依頼することができます。
※間接型の場合は仲介手数料が発生します。

▼空き家バンクの流れ

土地・建物を売りたい、貸したい方からの申し込みを受ける。

市ウェブサイトにて情報を掲載する。

定住・二地域居住等の希望者から申し込み受付

売買・賃貸交渉

定住・二地域居住の開始

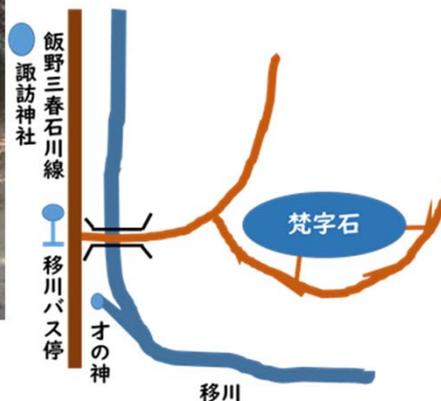
登録を希望する方は、集落支援員にご連絡をください。また、地域の空き家調査を行いますのでよろしくお願います。

ふるさと探訪 「雲堂和尚梵字石」

赤い鳥居が全部で三つあるが、最初の鳥居は色がはがれていても寂しい。稲荷神社のお社自体はこじんまりして比較的古い感じが。雑草も気にならない程度で小道も歩きやすい。梵字の刻まれている岩が成人の二倍以上もある。三〇〇年以上たった今も刻まれた梵字がはつきり見えることに感動を覚える。

この梵字は、稲荷山長安寺の住職が夜な夜な丑三つ時となると本堂が屋鳴りや振動が始まり、からからと笑う声があるので振り返ってみるが何事もなかったということが度

重なり、二本松城下で名高い雲堂という高僧に助けを求めた。「これは不動尊を粗末にしたあたりだ」と雲堂はいい梵字を刻ませた大きな石の下で17日間にわたり断食をして修行を行ったところ、怪異が止んだと伝えられる。長安寺はその後、廃寺となり、梵字石は稲荷神社の境内にある。



集落カルテから 見えてきたもの⑨

▼住民の日常生活の前号からの続きの回答です。

○介護問題

家族で看ている。

要介護者の多くは施設に入所している。

デイサービスの利用。

グループホームの利用。

訪問介護の利用。

老々介護が近づき自宅では難しくなってきた。

○一人暮らし問題

声掛けを行っている。

家族や身内で対応をしている。

隣家が離れているなどで、孤独死が考えられ、定期的な確認方法を考えなければならぬ。

回覧等で不定期訪問している。

コミュニティの充実。

○降雪時の状況
市道・県道・国道は業者が除雪している。

個人宅は個々に除雪をしている。

投げるところがなく、積もった雪を道路の歩道に積み上げていく所もある。

除雪ボランティアを登録し除雪してくれる人もいる。

地域によっては、市の除雪

が遅いという意見もあった。高齢化により自力での除雪が大変で、場合により行政区で対応している所もある。

○防災対策の状況

防災対策は行っていない。

消防団の巡回。

自治会によっては口太川、移川に囲まれた地域のため増水により通行止めとなる。安全な迂回路が必要、孤立の可能性もある。

自治会長などが安否確認を行っている。

避難所まで遠く、避難できない。

緊急時に連絡がとれるよう連絡網を作っている。

○住民同士の相互扶助活動の状況

家屋の一斉消毒をしている。冠婚葬祭での付き合い。

声掛けや挨拶。

近所で何かあれば、すぐに駆けつけて、手助けをしている。

日頃からコミュニケーションを大切にしている。

日常的な交流は希薄になっているが、状況に応じて相互扶助する。

サロン活動や隣近所の声かけによりお互いの状況を確認し合っている。

○現在不安な事・困った事等若者がいない。少子高齢化、

後継者不足。

人口減少、高齢化により、自治会の運営、若連、消防活動が不安。

バス停留所まで距離があり、自動車運転免許証返納後の交通手段確保が難しく、買い物や医療機関等への移動手段確保が課題。

一人暮らしのサポート。

後継者問題。

イノシシ・サル・シカ等の被害の拡大。

外来種生物が生息している

(ハクビシン、アライグマ、ミンク)。

高齢者が多く、地域のイベント開催が難しい。

小さな子供の将来、安心して育てていけるのか。

田村市方面や郡山市内の医療機関を受診することになっているので、近隣市街の巡回バス等に乗れるよう行政として協定を結んでほしい。

一人暮らし高齢者の病気を含めた孤独死。

増える空家の老朽化。

区役員や自治会役員を決めるのに困っている。

水道がなく、基本井戸で生活水を賄うが、水不足による

井戸涸れが発生している。

子供が少なくなってきたので、小中学校の統廃合を

考えて欲しい。

自分たちが車の運転が出来なくなったらどうしようかと不安になる。

自治会として限界集落なので、市道の草刈等も難しくなる。

空き校舎が、雨漏りがひどく活用するには手遅れの状態となっている。

※ あまりにも多いため、抜粋しています。

定住支援員の紹介

地方への新しい人の流れを生み出すために、移住希望者等への情報発信や移住者の定住に向けた支援の充実を図るため、岩代支所に定住支援員が配置されました。

「定住支援員の菅野です。4月から地域振興課でお世話になっていきます。」



趣味は、ウォーキングや山歩き、温泉に行くことです。コロナが落ち着いたら日山方面ブラブラしたいです。」